



# 学校だより

令和8年5月吉日  
上越市立有田小学校  
校長 杉田 卓裕

## ～自分もみんなも大切に 一人一人のかがやきづくり～その2

前回の学校だよりで、大切にしたい言葉「自分もみんなも大切に」の意味について書かせていただきました。今回は、新たに付け足した「一人一人のかがやきづくり」について、その意図をお伝えします。

学校は、文科省が10年ごとに改定する「学習指導要領」というものにしたがって運営しています。その学習指導要領が改訂から5年が経過し、次の改訂を2030年と考えているようです。その次期の学習指導要領ですが、国で検討している様子が逐一情報提供されています。そうした内容を見ると、大きく変わろうとしているのが分かります。

5年後の2030年は、どのような時代になるとおもいますか？

この質問を投げかけたのは、有田小に通う子どもたちにとって大きく関係することがありそうだと考えたからです。このあとの情報は、少し個人的な見解も入っていることを先にお伝えしておきますが、書籍や文科省が発表する内容にも基づいています。

今の時代は、「VUCA（ブーカ）の時代」と言われ予測不可能で不確実な状況にあると言われています。人類における農業革命（弥生時代）、産業革命（イギリス発祥）の第3の革命が起きているとも言われています。「情報革命」です。今後はAI及び生成AIによるさらなる変化が予想されます。教育についても時代に合わせた動きがあります。一つにそれは、高校や大学の進学です。また、他にも就職が挙げられます。何年か前には、子どもたちが将来職業に就くときには、現在の6割の職種が無くなって新たな職業が現れると言われていました。現在もそれは変わらないようです。そして、その進化は加速しているようにも思えます。AI及び生成AIによって多くの仕事にますます変化が予想されます。そして、仕事や就職の状況が変われば教育も変化します。これまで大学は、企業が必要とする人材育成に向けたカリキュラムというよりは専門的な知識や研究が主でした。しかしながら、社会に出たときに戦力として実用されないという現状が見え、どちらから言えばコミュニケーション力や社会性、主体性を求めるようになってきました。同時に、少子化傾向で人材確保に向けて入試（※ここでは詳細は控えます。）の状況においても変化が訪れています。大学入試が変われば否が応でも高校の学習内容や入試対策が変わります。今や通信制高校の増加が見られ構造自体が大きく変わっています。また、高校無償化という政策において大きく選択肢が増えることは間違いないでしょう。自分で自分の将来を考え、選択が増えることはよいことですが、急に自分で考えて選べと突きつけられるのです。今の若者はどちらかと言えば指示待ちで、主体性に欠けると言われています。それは、これまでの教育によって主体性と当事者意識が奪われてしまったからです。自分で選ぶことを迫られる自己責任の時代が目の前に来ています。そうなったときに、有田小の子どもたちは、日本の多くの子どもは、自己決定できるのでしょうか。ここで紙面の限界が来てしまいました。次号に続きたいと思います。

※「一人一人のかがやきづくり」の意図と学校での取組について次号で必ずお伝えします。